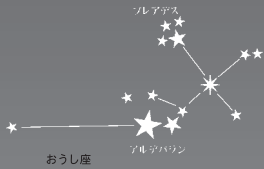


ポラリスを仰ぐ北の大地から



トランプショック

岩内古宇郡医師会 会長 北山 秀

米大統領選はトランプ勝利という衝撃的な結果に終わった。トランプ旋風については報道を見たり、トランプについてと書かれた本も読んでいたので、まさか勝つことはないだろうと思っていた。しかし政治経験のない史上最高齢の米大統領が生まれることになった。当初トランプ自身も本気で大統領になる気はなかったような節もあり、予備選は2位になれば良いとの発言もあったようである。自己顕示欲が強く道化を演じることを厭わないトランプは金を使わずにマスコミの注目を集めるため暴言を吐いた。ツイッターでも発信し続けたが同調する声が増える予備選で勝ち続けることによって、本気で大統領を目指すようになったようだ。最近の共和党候補はヒスパニックなどのマイノリティーを意識するあまり、白人票を獲得できずにいたが、トランプはヒスパニック系の票を捨て暴言を繰り返し、白人の非熟練労働者の支持を得ることに成功した。

彼らはリーマンショック後に経済的に最も打撃を受けている。ヒスパニック系をはじめとする移民の非熟練労働者と仕事を争い、敗れていくのが白人の中年男と言われるが、そのように置き去りにされた白人の男たちがトランプの中核的支持層になっているというのが定説だ。また、トランプはイスラム敵視発言によって福音派プロテスタントの支持も集めた。白人の福音派プロテスタントの73%はイスラムとアメリカ文化は対立すると考えているからだ。

こうしたアメリカの喪失感、不満、不安を背景に勝ち抜いたトランプが暴言を実行したら世界は恐慌や戦争など危機的な状態になるかもしれない。ここでこそ得意の演技力でレーガンのような良い？大統領を演じてほしいと思う。



近況報告

胆振西部医師会 会長 坪 俊輔

昨年8月のこの欄でも述べましたが、当地では伊達市が国内移住を積極的に勧誘するなどの“ウェルシーランド構想”を掲げ、高齢者が安心して暮らせる町づくりを積極的に推進しています。それもあってか、医療と密接にリンクしながら介護・福祉事業が生活産業となり地域経済の一翼をしっかりと担っています。数年後に迫った病床機能区分の再編を考慮しつつ、行政である伊達市が音頭をとり、すでに医療・介護・福祉が同席する形での協議会が定期的に行われています。内容は各機関での患者あるいは入所者の正確かつ迅速な情報の共有化の方法などと共に、現在行われている在宅医療から病床機能再編後に在宅医療に求められるであろう新たな分野、例えば看取りなどを想定しながら、真剣な討論が繰り返されています。私もできる限り出席していますが、勉強になることばかりで医療側から介護・福祉事業へのさらなる積極的な関与が不可欠との思いを強くしているところです。

さてプライベートなことですが、一昨年隣町の室蘭市に嫁いだ娘に孫娘ができ、月に2～3度は顔を見られるようになりました。この子の成長の早さに舌を巻くと同時に、この子は天才？などと想う超一流の“爺バカ”となってしまった私です。できればあと25年くらい元気でいて可愛い孫娘の花嫁姿をみたいものです。もう一つ、熱狂的な日ハムファンである女房に連れられて札幌ドームに足を運びました。それがなんと大谷投手が160キロ超えを連発して快勝したあの試合で、50年来大の巨人ファンだった私が、一日にしてコロッと日ハムファンになってしまった次第です。

11月23日にはめんこい孫娘を連れて、日ハムのファン感謝デーに行く予定で、これが目下最大の楽しみとなっています。

